

## 全ての人の生活、生命が大事

京都府立洛北高等学校 1年 藤居 壬楽

私の住む京都には、世界中から観光客や留学生がやって来る。2022年時点で154の国・地域の約5万人の外国人が居住していて、学校や地域の普段の生活でも外国籍の方と接することが多い。街は世界地図の縮図のようで、異文化と共生することを学ぶ機会が豊富にある。

例えば、友だちのYさんはマレーシア出身でムスリムだ。彼女は、ラマダーン（断食）の時期は日が沈むまで食事を取らないため、食事に誘うことは控えるし、断食中の彼女の前では食事をしない気遣いが必要だ。

休みの日にYさんと他の友だちと一緒に遊園地に行った時に困ったことがあった。ジェットコースターは風が強いので、帽子もスカーフも取らないといけないという。彼女たちはコーランの教えで、名誉と尊厳を維持し、禁欲的であるために顔を覆うヒジャーブ（スカーフ）を着けている。それを外すのは彼女の尊厳を傷つける行為だ。だからといって、ヒジャーブを着けているからジェットコースターに乗れないのはあまりにもかわいそうだ。そこで私たちは、彼女が宗教的な理由でヒジャーブを外せないことや、ヒジャーブはしっかり装着されているから安全なことを係の方に根気強く説明したら、理解してくれて、彼女は無事乗車することができた。不合理な理由で遊園地を楽しむ権利を奪ってはならない。

また、夏休みには近所の博物館の前ではだして歩いてる西洋人らしき家族に出会った。父親、母親、おばあさん、小学生くらいの女の子が2人の5人家族だ。はだして歩いてるとそもそも足が汚れるし、ガラスの破片などの危険な物が落ちているかもしれない。特に小さな女の子がけがしないか心配になって、「日本の歩道は靴を履く前提なので、足を傷つけるかもしれないですよ。大丈夫ですか」と思い切って話し掛けてみた。彼らはスウェーデンから旅行に来ていて、環境を守るために靴はおろか最小限の衣服しか着ないようになっているという。「はだして歩くのは気持ちがいいよ。私たちは慣れていて、ちゃんと危険な物はよけて歩いているから大丈夫。心配してくれてありがとう。京都でそうやって声をかけてくれたのは7人目だ」と教えてくれた。

なるほど、素足でも安全に歩くことができ、むしろ心地よいのか。しかも環境に優しい。「道路では靴を履く」という僕の知っていた常識は世界の常識ではなかった！

頭の中がぐるりと回ったようだった。異文化の人と接するときには特に常識と知っていることは本当に常識なのか疑った方がいい。

宗教、文化、生活習慣の違いを受け入れて、尊重する姿勢は、異文化共生や、世界の平和の根本を成す最も重要なことだと思う。まずは誰もが異なる個性、能力、生活、価値観を持っていることを認識する。そして、その人の心、身体、価値観、文化、生活、人生を尊重する。

人の心を大事にすると、中傷やいじめがなくなるはずだ。性別、人種、宗教の違いによる差別もなくなるだろう。

人の身体を大事にすると、暴力を振るうことがなくなる。もちろん巨大な暴力で人を傷つけ生命を奪う紛争や戦争はもつての外だ。

全ての人の暮らしを大事にすると、富める人も貧しい人も皆が安全な家で暮らせるように国や地域

の共同体で政策を考えて、家を整備するはずだ。

全ての人の環境を大事にすると、排気ガスで空気を汚すことも、無駄なゴミで地球を汚すこともなくなるはずだ。

全ての人が快適な気候で過ごすことを大事にしたら、気候変動、温暖化への取り組みを真剣に考えて、実行するはずだ。

2020年に米国で黒人男性が警官の暴力により圧死した痛ましい事件が起こった時に「Black Lives Matter——黒人の人生、生活も大事だ」と主張する人種差別抗議運動が全米で広がった。

僕はこの運動を広げて「Everyone's Life Matters——全ての人の生活、生命が大事」と訴えたい。

まずは自分の常識を疑って、自分と異なる文化や、人種、価値観の人がいることを知り、受け入れよう。そして、地球の全ての人の生活、生命を尊重し、誰も取り残すことなく安全で快適な住み続けられる地球と一緒につくろう。

